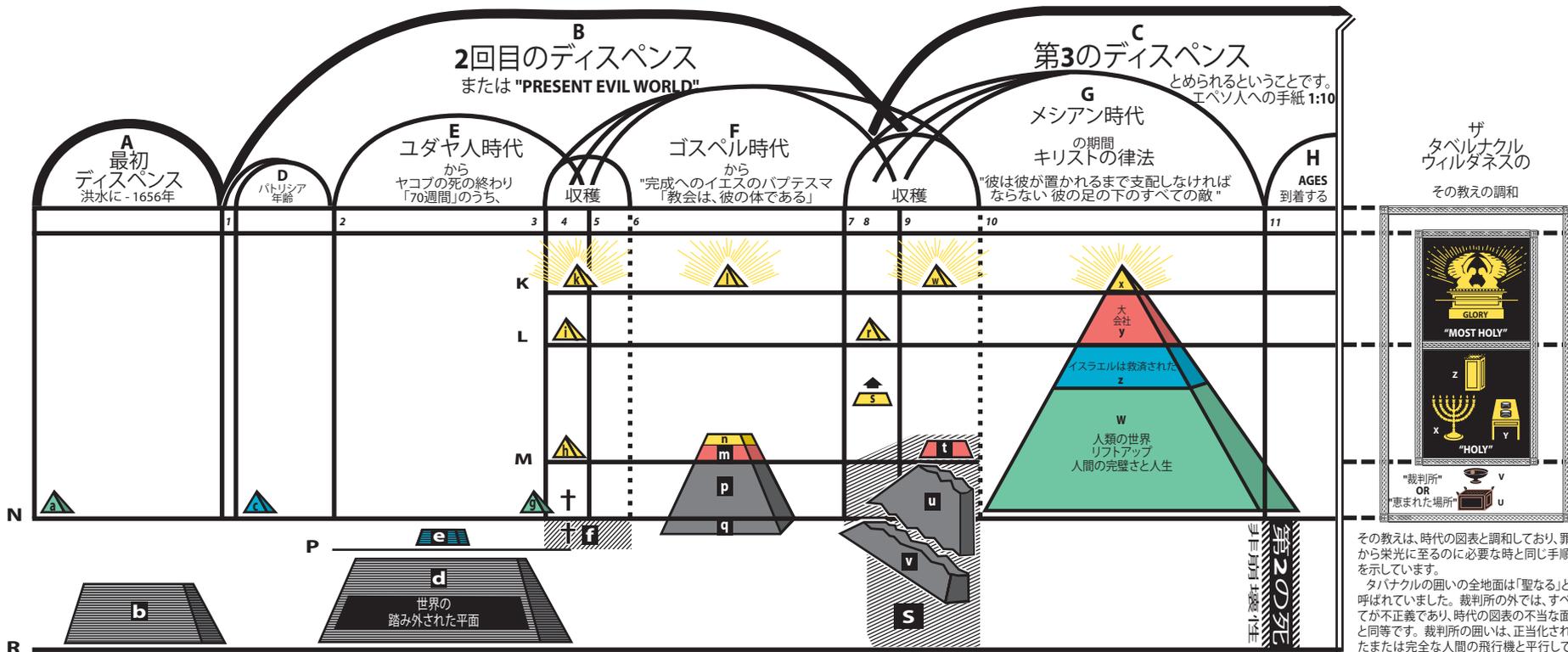


時代の図表

パラダイス・ロストからパラダイス・リストアまで



「板に、わたしの答えを書き記せ。だれでもひと目で読んで - ハバクク書 2:2

その教えは、時代の図表と調和しており、罪から栄光に至るのに必要な時と同じ手順を示しています。

タバナクルの囲いの全地面は「聖なる」と呼ばれていました。裁判所の外では、すべてが不正義であり、時代の図表の不当な面と同等です。裁判所の囲いは、正当化されたまたは完全な人間の飛行機と平行しています。「聖なる」とは聖餐の始まりであるキリスト教徒の条件を表しています。第二のベールを越えた最も聖なる者は、「私たちがは彼のようになる」という完璧な精神的条件を表しています。栄光の飛行機は、「栄光、名誉、不滅」という希望の壮大なクワイマックスに沿っています。

◆ 研究 12 ◆

世々の神の計画のチャート

神の救いの計画の手順に従う際、裏表紙を展開して頂きたい。この表は、アダムからミレニアムの終わりまでの様々な時代を示しており、その後「来るべき時代」が続いている。それは、神の計画の展開と、人類の罪の宣告から回復—及び選ばれた教会の昇進につながる人々—までの措置を示している。3つの主な時間区分は分配A、B、Cである。それぞれは聖書において別々の「世界」として識別され、異なる支配者によって管理される。

天使の統治下の第一の世界

A	天地創造から洪水まで: 「その時の世界」(ペテロ第二 3:6)
B	洪水からキリストの2度目の来臨まで: 「今の悪の世」(ガラテヤ 1:4) 「この世」ヨハネ 12:31; 18:36
C	キリストの統治から「来るべき世々」(エフェソス 1:10; 2:7): 「義の住む新しい天と新しい地」(ペテロ第二 3:13)

洪水で失われた「その時の世界」は、天使達の管理下に置かれた。しかし、これらの天使たちは「彼らの最初の財産を保たなかった」(ユダ 6; ヘブライ 2:5)。人の娘たち

が美しいと見て、彼らは人として具現化し、人類と交配したが、結果は悲惨だった(創世記 6:1-5)。その世界はその後邪悪にひどく落ちぶれ、正義の怒りで神は、洪水でそれを滅ぼし、ノアと彼の7人の家族だけを救った(創世記 7:13)。

サタンの下にある現世の3つの時代

この「現世の悪の世界」は、「この世界の王子」であるサタンの力の下にある(ヨハネ 12:31)。この間、人類は自治を試みることを許されていた。広がる悪魔の影響のもと、効果のない自治は、最終的には役に立たないと証明するだろう。この「現在の悪の世界」は、究極的には、世界がこれまでに知った中で最も大きな悩みの時に終わるだろう。

第二の偉大な支配は、3つの異なる時代で構成されており、それぞれが神の計画の中で猛進している。まず、D時代、「家長の時代」は、神が信仰の父親—アブラハム、イサク、およびヤコブ—を扱った時である。

次は、ヤコブの死で始まった「ユダヤ時代」、Eだった。神はそれからヤコブの12人の息子、イスラエルの12の部族の子孫を「私の民」と認識した。彼らは特別な恵みと責任の両方を受け、独特の方法で神の民となった(詩編 14:7)。「地のもろもろのや

からのうちで、わたしはただ、あなたがただけを知った(アモス 3:2 口語訳)。

国家として、イスラエルはキリスト教会の概念もあり、教会に与えられた「より良い約束」に典型的な約束を伴う「聖地」である(ペテロ第一 2:9, コリント第一 10:1-4)。イスラエルの荒野を通して旅する旅は、罪の荒野を通る天のカナンへのキリスト教の旅を描いている。イスラエルの「雄牛ややぎなどの血」を犠牲にしては、決して罪を取り除くことはできないが(ヘブライ 10:4)、彼らは、福音時代の「王なる司祭」の「更に優れたいけにえ」を指したのである(ヘブライ 9:23)。「私達の職業の大祭司」であるイエスを通して、私達は、自分たちの「からだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物」として捧げるよう要請されている(ヘブライ 3:1; ローマ 12:1)。従ってユダヤ時代の礼拝と条例は、来るべき偉大な現実の「影」だった(ヘブライ 10: 1)。

「福音時代」、Fの間、キリストの体は、世界から犠牲の狭い道へと呼び出される。「死に至るまで忠実」であれば、彼らは「神性に従う者」になり、「命の王冠」を受ける(啓示 2:10)ようになる。悪がまだ支配する間、彼らは、特権と恵みを伴う人間性を犠牲にするか、神に試される。イエスに従うことに忠実であれば、「みかたち」で復活したときに「満足」するだろう(詩編 17:15)。

3つの「現在の悪の世界」の時代の中に、悪が支配し、正しい者は苦しむ(マラキ 3:15)。しかし「来るべき世界」では正義が支配され、悪は破壊されるであろう。

第三の世界の支配—来るべき時代

3番目の偉大な支配は、メシア(ミレニアル)時代とそれに続く「来るべき時代」で構成されている。「メシア時代」Gは、聖書には、「神が聖なる預言者たちの口をとおして、昔から預言しておられた万物更新の時(使徒 3:19-21)の間の「地上の全ての家族の祝福の時」として記述されている。回復の時代に、克服する教会は、人類の世界を祝福するイエス(啓示 3:21)と「御座」に座るだろう。「最後の敵」として滅ぼされるのが、アダムの「死」(コリント第一 15:25,26)である。

聖書は「来るべき時代」Hを言及しているが、詳細には触れていない。今のところは、神が「恵みの豊富な富を示す」ときに、時代は祝福の時代になるのだと知っていれば十分である。

ユダヤ時代と福音時代の収穫期

ユダヤ時代と福音時代はそれぞれ別々に始まり、それぞれが働きの発展に長時間を要した。それぞれは、収穫期で終わり、時代の目的の果実が収穫される。収穫時は、2つの時代の仕事が重なり合う時期でもある。例えば、

ユダヤ時代が A.D.70 年のエルサレムの崩壊で終わる前に、A.D.29 年にヨルダンでの主の聖別ともに福音時代の仕事が始まっていた(使徒 10:37,38)。この重複は、表にも示されている。ユダヤ時代の収穫時の様々な始まりと終わりのラインと、福音時代の収穫期に注目して頂きた

い。

ダニエルは、段階的に終わる(年々のうちの)約 70 “週” のイスラエルに対する神の恵みを預言した(ダニエル 9:24-27)。最後の週の間イエスは福音時代の仕事を紹介するようになった。7年のうちの最後の週の「真っ最中」、イエスの「命が断たれる」直前に、彼は人々に言われた。「見よ、おまえたちの家は見捨てられてしまう(マタイ 23:38)」彼の犠牲が払われると、典型的な動物屠殺場はもはや受け入れられず、一世代の間に、それらの供物が与えられた寺院は破壊された。

それらの 70 週の終了後、福音は異邦人に開かれた。この変化は、異教徒のコルネリウスに聖霊が注がれたことで示された(使徒 10:45)。ユダヤ人の全国的存在は、その後ローマ人がエルサレムとその寺院を破壊した際に終わった。

このようにして、ユダヤ時代の収穫の間、聖別されたキリストーかしらと身体(コロサイ 1:18)の試練と発展のために福音時代が開始した。復習のミレニアル時代は収穫期中に始まるため、ユダヤ時代の終わりと同様に、福音時代は段階的に終わる。現在私達は、自由とテクノロジーの恩恵をいくつか目にするが、問題も存在する!

真のキリスト教徒の「小麦」の収穫作業がすべて終わった後、世の中は「かつてなかったような」悩みの「火」を経験する(マタイ 13: 24-30,37-42 ; 24: 21,22; ダニエル 12:1)だろう。ありがたいことに、この問題に対する準備は、キリストの義と修復の統

治をもたらすだろう。

表のラインとピラミッド

表の縦線は時間の経過をマークしている。水平線は、K、L、M、N、P および R 時代の間の生命および状態の平面を示す。完全なピラミッド形は完全性を示し、不完全なピラミッドは不完全さを示している。

人類は、平面Nに完璧に創られた(完成したピラミッドa)アダムで始まり、完璧な人間性を意味している。彼が罪を犯したとき、彼は罪と死の面に落ち(平面R)、そこで彼の全子孫が生まれ、未完成なピラミッドbで示されている。

平面Nの完成したピラミッドcは、アブラハムのように、古代の神の友とみなされた古代の忠実な信徒を表す(ヘブライ 11; ヤコブ 2:23)。忠実な信徒をいう用語は、神に対し献身的で イエスの時代まで生きていた、信仰の男女全てを指す。

イスラエルは、平面Pー典型的な義認のレベルの未完全なピラミッドeを指す。彼らの法の下での犠牲は、実際には罪を取り除きはしなかったが、実際に罪を取り除くキリストの犠牲の代理だったのである(ヘブライ 10: 1, 9:14)。しかし、イスラエルは恵まれた人々で世界とは異なり、幾分上に高められていた。

栄光への福音時代の細道

福音時代の栄光への細道は実際にはユダヤ時代の収穫時の中で始まった。ヨルダン川で世界を救う完璧な人物と紹介され

たイエスは、平面 N のピラミッド g として示されている(ヨハネ 1:14, 29)。その後、イエスは王国の福音を宣言しながら公衆にたいし伝道をお始めになった。イエスの伝道は国家を変え、「小麦」-「実際にはイスラエル人」-を、-「穀殻」-昔からのシステムのごみである穀殻から分離した。イエスを受け入れ、彼を拒否したリーダーシップから離れることにより、「小麦」が「穀殻」から分離されたのである。

「穀殻」は、後に神の裁きの火がローマ軍にイスラエルを一掃させ、エルサレムの破壊をもたらした時に(比喩的に)焼かれた(ルカ 3:17:21、テサロニケ 2:15,16)。ユダヤ時代を終わらせたその問題の時期が、表の陰影部分 f である。

イエスが水のバプテスマによって聖別を象徴した後、聖霊が彼に降りてきて、神の受容と聖別を示した。この霊で満たされたことは、平面 M のピラミッド h に示される新しい性質-聖霊-の始まりだった。イエスの伝道活動の間-「聖なる、無害で、汚れなくなり、罪人から分かれていた」が-イエスは人々の悲しみや苦しみを抱え込み(イザヤ 53:4)、自分の活力と健康を彼らに与えた。「徳[生命、力、エネルギー]が彼から出て行き、彼はすべてを癒した(マタイ 8:16,17; ルカ 6:19)。」3 年半、「死にいたるまで、自分の魂をそそぎだし」出した後(イザヤ書 53:12)、イエスの人生は十字架で終わった。

3 日目にイエスが復活したとき、彼は最高位の栄光の精神(平面 L のピラミッド i)、「死

の初子」(コロサイ 1:18)として蘇った。もはや人間ではなかったが、イエスは復活の後、様々な人間の形で現れる能力を持っていた。彼の目的は、彼は本当に復活したが、彼らが以前知っていた人としてではないことを信者に説得することだった。したがって、彼は墓の庭師として、海岸の役に立つ見知らぬ人として、エマオへの旅の同行者として登場したのである。彼は人のように見えたが、「霊から生まれた」ため、「ドアが閉じている」時でさえ、「風のように」行くことができた(ヨハネ 20:19,26)。

彼の復活から 40 日後、イエスは父に - 平面 K のピラミッド k として表される神の栄光の平面に「上っていかれた」(ヨハネ 20:17)。それから、彼は「父と共にその御座についた」(啓示 3:21、ヘブライ 10:12)。イエスは、福音時代の教会の長として(平原 K 上のピラミッド 1)、教会の規律を教え、その発展を導く。私達が彼の苦しみを共にするなら、私達は「キリストとの共同相続人」として、栄光をも分かち合うと確信している(ローマ 8:17)。

教会はイエスの志を継ぐ

したがって、栄光への教会のステップは、下の平面 R から始まる教会を除いて、教会の主と新郎のものと同じである。福音時代には、自分達の罪のために死んだイエスに感謝-友人として神に近づいている-全ての人々が、平面 N で正当化されていると見なされる。この信者の中には、心を動かされ「主よ、私は何をすべきでし

ようか？」と尋ねる者がいる。(使徒 9:6)
使徒パウロが答えている。「兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である(ローマ 12: 1)。「生きた供え物」とは、私達が持つあらゆる力と才能を、神の奉仕に奉献し、自分のためではなく、天の御父のために生きることを意味する。「彼〔イエス〕の血によって義とされている」のだから、私たちの犠牲は「神に受け入れられる、聖なるもの」と見なされるのである(ローマ 3:25, 5:9)。

「私達の中に啓示される栄光への道」の次のステップは、平面 M である。この平面は、新しい精神的な生活の中に生まれたことを示す。神は、「ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神。神は、その豊かなあわれみにより、イエス・キリストを死人の中からよみがえらせ、それにより、わたしたちを新たに生れさせて生ける望みをいだかせ」た(ペテロ第一 1:3)。人間として私達の意味は死んでいるが、私達には、新しい、隠された命が育っている。「あなたがたはすでに死んだものであって、あなたがたのいのちは、キリストと共に神のうちに隠されているのである。3:4 わたしたちのいのちなるキリストが現れる時には、あなたがたも、キリストと共に栄光のうちに現れるであろう(コロサイ 3:3)。」神の言葉は私たちの心の中で働き、霊の誕生を準備する胚「新しく創られた者(コリント第二 5:17)

として、私達の心を変えるのである。「父は、わたしたちを、いわば被造物の初穂とするために、真理の言葉によって御旨のままに、生み出して下さったのである(ヤコブ 1:18)。」命を忠実に犠牲にして死に至らしめる人々は、平面 L で描かれた天の復活を受けよう。「試練を耐え忍ぶ人は、さいわいである。それを忍びとおしたなら、神を愛する者たちに約束されたいのちの冠を受けるであろう(ヤコブ 1:12)。」「霊から生まれた」平面 L はそれぞれ「風」のような霊であり、普通の視覚では見えず、強力で不可視である(ヨハネ 3:6-9)。

平面 K は、復活—イエスの花嫁とイエスの祈りの栄光における、聖人の個人的な栄光を超えて高められることを示す。「花嫁はその用意をした」そして「小羊の婚姻の時がきた(啓示 19:7)。」集団として聖人達はキリストと共に高められ、「王と祭司」として治めるだろう(啓示 1:6, 5:10, 20:6, ペテロ第一 5:10)。

キリスト教会の混合した状況

福音時代の間、多くの人がクリスチャン—積み重ねられた未完成のピラミッドの中の n, m, p, q という 4 つの異なるクラスに示される—だと主張した。平面 M の n と m は共に精神霊から生まれた「新しい創造物」である。セクション n に表される人々は、全てを犠牲にするという特約を忠実に守っている。一方、m に表される人々は、奉献を果たすことから尻込みしている。信心深い人々は、「金、銀、宝石」で表される真理

と正義で、キリストの「確かな基礎」の上に彼らの性格を作り上げた(イザヤ 28:16、コリント第一 3:1 - 15)。

m に表される他のものは「木、干し草、刈り株」不安定な性質をもたらす土地の価値の混合物で構築される。しかしそれでも神は彼等を愛しておられる！ 彼らの仕事は燃え尽きるが、彼らは特別な逆境の「火」のように。「救われている。」 彼らは花嫁クラスの大賞を逃す。彼らは、平面 K の栄光で、キリストと彼の王座で統治することを逃すが、彼らは天の命平面 L を受けるだろう。聖書は「王位の前に」奉仕する花嫁の「仲間」として彼らを「大勢の群衆」と語っている(啓示 7:9,14,15; 19:6,7; 詩編 45:10-14)。

クリスチャンであると主張する者の大部分は、セクション p に表されている。通常彼らは、イエスが彼らの罪のために死んだことに対し有難く思っているが、向上して完全な奉獻を行い、新しい霊の命に生まれることはない(コリント第二 6:1)。彼らは、使徒(ローマ 12:1)によって「兄弟」と呼ばれているが、キリストの「身体」のメンバーではない。彼らは正しい方向に始めた。そして、回復の時に、地上で神の家族の一員になるのに有利となるだろう。

キリスト教に関連する別のクラスは、平面 N の下部にセクション q として表されている。これらの人々は決してイエスを自分達の罪の犠牲として信じなかったが、世俗的な理由から自分自身を教会に所属した。これらは、「羊の衣を着た」「狼」(マタイ 7:15)である。彼らは、時代を通じて主の人々に多

くの傷を負わせ、本当は平面 R に属する。

収穫期—分離の時

キリスト教は、福音時代を通してこの混合した状態で存在していた。主はこれを小麦とかごの譬で描いている(マタイ 13:24-30,36-43)。この寓話では、「敵」が「小麦」の中に「毒麦」を撒く。刈る者は収穫時まで、両方とも育つままにしておけ、しかし「収穫期になったら、刈る者〔「天使達」—メッセンジャー〕に、まず毒麦を集めて束にして焼き麦の方は集めて倉に入れてくれ、と言いつけよう」と命令された。この寓話では、「良い子孫」は「天の子孫」、n と m である。苦境の時に、バビロンの施設が崩壊した際、彼らのクリスチャンは普通にすぎず、真実ではないのだと分かっているという意味で、「風袋」や偽造品(q 全てと p の多く)は「燃やされた。」

福音時代の収穫期は、ユダヤ時代の終わりに収穫期と並行している。両方とも最初に試練と変換の時があり、それから神の裁きと怒りの時がある。

ユダヤ教の収穫期では、福音のメッセージの真理は、「穀殻から小麦」を、名目だけのイスラエルから「ほんとうのイスラエル(ヨハネ 1:47)」を分類した。

福音時代の収穫期では、「いよいよ輝きを増して真昼となる」真理は、「穀殻」から「小麦」を分類する(箴言 4:18、啓示 14:14)。神はご自分の民を、今日のキリスト教世界である多くの誤り(啓示録 18:1-4)と、ある真理の入り混じった混合物バビロンから「出

てくるよう」呼びかけられる。「わたしの民よ。彼女から離れ去って、その罪にあずからないようにし、その災害に巻き込まれないようにせよ(啓示 18:4)。」

収穫期間、霊から生まれたクリスチャン(図 t) キリスト教徒の中には、熱意に欠けるためにバビロンから離れるのに時間がかかる者がいた。これらの人々は、啓示第 7 章の 9 節で「大勢の群衆」と呼ばれる。彼らは世俗的な精神に左右されているか、この人生の心配に責任を負いすぎている。彼らは、「子羊の血」の中で「衣を洗う」という特別な懲罰を通してのみ、自分自身を浄化するのである。彼らの報酬は「神の御座」の前に奉仕することである(啓示 7:14, 15)。たとえ最高の報酬を失っても、「子羊の結婚夕食に呼ばわれた時、彼らは「ハレルヤ、全能者にして主なるわれらの神は、王なる支配者であられる。わたしたちは喜び楽しみ、神をあがめまつろう。小羊の婚姻の時がきて、花嫁はその用意をしたからである啓示 19:6,7,9)。」

「死に至るまで忠実な」クリスチャンには命の冠が約束されている(啓示 2:10) 小型のピラミッドsは、収穫期の間に栄光に導かれた忠実な聖者を表している。ピラミッドrは、彼らが復活で会う、戻られた主を表している。収穫期の間、「キリストにあって死んだ人々が、最初によみがえる(テサロニケ第一 4:15 - 17)。」すなわち、過去の忠実な聖徒たちは、彼らの復活が変わる前に、私たちの主の帰還を待って死に眠っていたのである。その後収穫時の間に死ぬ人々は、

眠る必要はなく、「またたく間に、一瞬にして」変えられる(コリント第一 15:51, 52)。彼らは徐々に一つずつ、彼らの死の過程を終える際、共に一全員同時にではなく、同じ場所に一集められる。(テサロニケ第一 第 5 章 10,11 節の文脈に使用されている「共に」を参照。)

図 t, u 及び v は、この「問題の時」がこの時代が終える間、判決を受けるバビロン一名ばかりの教会一を表している。バビロンは、何世紀もの間、多くの教義と実践により、神の性格を不正確に伝えてきた。イエスの両方の来臨で、イエスは、「イスラエルの二つの家一自然的及び精神的一には」さまたげの石、つまずきの岩となる(イザヤ 8:14)。国家としての自然のイスラエルは、救い主としてのイエスの存在と目的を認識し損なった。名目上の霊的なイスラエル(キリスト教)はまた、イエスの 2 度目の出現の方法と目的の両方を誤解している。

名ばかりの教会は、システムとして、「最後の七つの災害」(啓示 16:1-21)によって終わりに来る。偽りの教会制度の破壊は、斜線部分 S に示される、福音時代の収穫期の終わりに行われる。

恵みの救世主的なミレミアム

人類を修復するのは、完全に成就のため、ミレニアル時代の全てを必要とする段階的な仕事である。アダムの罪による死の結果は、「死が勝利にのまれてしまう(コリント第一 15:25,26, 54)」のである。キリストの素晴らしい統治の下で、病気、痛み、死の影

響は、全て偉大な修復者の力に従うようになるだろう。

キリストは、忠実な教会と一体となって、大きなピラミッドの中の万物の長(ピラミッド、x部)になるだろう。次のランクは、聖霊の面(ピラミッド、y部)の偉大な一団(及び全ての従順な天使達)である。その次のレベル(z及びw)は、修復された地上の王国で、イスラエル(ピラミッド、パートz)が—古代の忠実な信徒に導かれて—残りの人類の世界を祝福するだろう(ゼカリヤ 8:13,23; イザヤ 60:18; 27: 6; エレミヤ 3:17 など)。

これらの「回復の時」の間、人類の世界(ピラミッド、パートW)は、アダムが自分自身と彼の子孫のために失ったものに引き上げられ、復元される。各人は、義と完璧に向かって進歩するための時間を必要なだけ与えられるだろう(イザヤ 65:20)。地上の何十億という人々のうち、比較的ほんの少数が、「へつらいながらみもとにくる(詩篇 66:3, 新世界訳)。だが、彼らはミレニウムに続く「小さな季節」の間に公に暴露されるだろう。それからサタンが解放され(啓示 20: 9)、これらの者たちは反逆に加わるだろう。彼らは、復活無しの「第二の死」で死ぬだろう。キリストはもはや死ぬことがない(ローマ 6:9)。

「地上の大家族」の祝福するための私達の父の素晴らしい計画は、確かに「すべての人々に大きな喜びをもたらした良い知らせ」である(ルカ 2:10)。やっと全ての人が、神が永遠に悪を滅ぼしたことを知るだろう。

キリストの下での創造の総体性

ピラミッドの図は、キリストの指導的地位の下にある、神の創造物全ての一体性をよく示している。「それは、時の満ちるに及んで実現されるご計画にほかならない。それによって、神は天にあるもの地にあるものを、ことごとく、キリストにあって一つに帰せしめようとされたのである(エフェソス 1:10)。

キリスト イエスは、「神に造られたものの根源(啓示 3:14)」であり、ピラミッドの頂上に美しく表され、それ自体完璧で完全なものである。下の建築物全体が、その完璧なラインに沿っていなければならない。「見よ、わたしはシオンに、選ばれた尊い石、隅のかしら石を置く。それにより頼む者は、決して失望に終ることがない(ペテロ第一 2:6)。

礎石の一つの特質は、イエスが最初に築かれた「基礎」であるということである！ キリストの下にある教会は、「生ける石(ペテロ第一 2:5 口語訳)」として、「彼にあって建てられた(コロサイ 2:7)」。この仕事は、ミレニアル時代の間、全ての生き物が個別にイエスの完全な性格に従うまで、進展するだろう。キリストの義の原則に従いながら心を整えない少数の人は、二番目の死で「民の中から滅ぼされる」だろう(使徒 3: 22,23)。「またわたしは、天と地、地の下と海の中にあるすべての造られたもの、そして、それらの中にあるすべてのものの言う声を聞いた、…御座にいますかと小羊とに、さんびと、ほまれと、栄光と、権力とが、世々限りなくあるように(啓示 5:13)。」

荒野の幕屋

表に説明されているように、イスラエル人の幕屋には、福音時代の栄光のステップに該当する絵が含まれている。人が不義の世界(平面 R)を代表するキャンプを離れると(人は門から法廷(Plane N)に入る。ここで私達は真鍮の祭壇の上の犠牲—キリストの犠牲に対する感謝の気持ちを表し—と、私達を浄化する機会を表すレバーを見る。さらに進んでいくと、聖の扉に来る。そこで私達には選択肢がある。私達は自分達の人生を神に奉獻すべきか？ 奉獻する方に前進するなら、私たちは扉を通過して神

聖な場所に入り、霊に生まれるであろう(平面 M)。「存在のパン」によって強化され、「燭台」悟りに達し、「金の祭壇」でイエスの傍で神に受け入れられる香を提供することができる。最後に、誠実に終わると、私達は最も神聖なイメージの天国自体(平面 L)に入る。私達はついに復活するのである—そして、来るべき時代(平面 K)の王国の栄光ある仕事をイエスと分かち合う準備ができているのだ。

神を称えよ！ 神の素晴らしい計画の図式の構想は、時代時代の表で本当に「明らかに」されている(ハバクク 2:2)。